

# 第43期(2024年3月期)定時株主総会 株主様ご発言

ご発言 1:

2024年3月期の業績が多額の損失だったにもかかわらず、要因や改善策の具体的な説明が無く、緊張感も欠けている。一般の株主にも分かり易い説明をしてほしい。

回答 1:議長(下村 哲朗)による回答。

ご指摘の通り2期連続の赤字でかつ2024年3月期は損失が多額となった点につき、大変遺憾であり、株主の皆様に対し大変申し訳ないと思っております。

具体的な要因と改善策については、1つは、2024年3月期の損失は将来を見越して計上したものです。特に中国については、市場が混乱しているため早期に投資を回収することとし、投資資産だけでなく拠点を含めた損失処理について2024年3月期でほぼ目途を付けております。

また、もう1つは、2024年3月期に予定していたプロジェクト投資資産や株式の売却のうち、予定通り売却してしまうと十分な利益が見込めないものについては、より収益を増大することが出来るよう2025年3月期に持ち越したことです。

また、我々が「戦略投資」と呼ぶ手法の確立は、道半ばであるものの方向性は打ち出すことができたと考えております。「戦略投資」とは、プロジェクト投資のパートナー企業の株式に投資をして、プロジェクト投資を通じた協業により成長支援を行う投資です。

ご発言 2:

業績の不振には、コロナウィルス感染症・ウクライナ戦争・半導体不足などの外的要因が影響しているのか。

回答 2:議長(下村 哲朗)による回答。

外的要因の影響があったことは否めません。例えば、コロナウィルス感染症により中国との往来が出来なくなったことや、ウクライナ戦争による物価上昇や金利上昇によりグロース市場が低迷していることで、投資の回収が停滞いたしました。

ただし、外的要因の悪化は常に起こり得るものであり、これらに耐え乗り越えることができるような投資モデルの確立や投資案件の発掘を目指してまいります。今後は、新経営陣に成長を託します。株主の皆様には、新経営陣に対しても、ぜひご支援を賜りたく、宜しくお願い申し上げます。

ご発言 3:

ガバナンス・パートナーズ株式会社という会社の関係者が急に株主や取締役候補者として出現したが、これまでの経緯について説明をしてほしい。

回答 3:議長(下村 哲朗)による回答。

今後の中長期的な当社の成長に向けて、機会があれば他社との協業を検討したいと考えておりました。ガバナンス・パートナーズ株式会社以外にも市場で当社の株式を購入したり、当社に対して協業を求める会社はございました。その候補の一つとして、ガバナンス・パートナーズ株式会社と時間をかけて対話を重ねた結果、当社と同じ投資会社でありシナジーがあること、ファンドの組成の実績があること、当社とは異なる領域でのネットワークがあることから、同社がパートナーとして適切であるとの判断に至ったものです。

以上